



KONICA MINOLTA

## 秋の星座解説

---

S-305 (10 分 06 秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

## 秋の星座案内

M F ー (夕暮れ)

空いっぱい星が出そろったようです。

秋の星空です。

星たちの語らいが聞こえていたような輝く夏の星空に比べて、秋の星空はなんとなく淋しげにみえます。

それは、きつと、明るい星が少ないからでしょうね。

しかし、淋しげなこの秋の星空は、実は壮大なギリシャ神話の舞台となっているのです。

「カシオペア王妃」と「ケフェウス王」

「アンドロメダ姫」と「ペルセウス王子」

それに羽を持って空を飛ぶ馬「ペガサス」に、化け物の「鯨」。

これらの登場人物が、神話の中の「エチオピア王家の物語」を華やかに繰り広げています。

それでは、これから、それらの星座を探してみることにしましょう。

ー M F O

秋の星座のシンボルと言えば、「ペガサスの四辺形」

秋の四辺形ともよばれる四つの星で作られた大きな四辺形です。

この四辺形が「ペガサス」の胴体の前半分となります。胴体の後ろ半分はありません。

この四辺形を使って星を探して見ましょう。西側の二つの星を線でつないで南へ延ばしてゆくと明るい星が見つかります。

秋の星空でただひとつの一等星「フォーマルハウト」

星座は「南のうお座」

東側の二つの星をつないでずっと北へ延ばしてゆくと北極星が見つかります。

「ペガサスの四辺形」といいましたが、四つの星のうちこの星——この星は、「アンドロメダ座」の星なのです。

この星から東側につらなるのがアンドロメダ座の星々です。

アンドロメダ座には有名な銀河があります。

アンドロメダ姫の右の腰の辺りをよく見て下さい。ぼんやりとした光のシミのようなものがみつかります。

これがアンドロメダ銀河M31です。

私達の銀河系と同じようなそして一番近い銀河です。

「カシオペア座」は二等星と三等星——五つの星が作る、ローマ字のWの形が目印です。

星座では椅子に腰掛けた「カシオペア王妃」の姿です。

カシオペア座の西にあるのが「ケフェウス座」ケフェウス王の姿です。

アンドロメダ姫はこの王様とカシオペア王妃の娘です。

アンドロメダ座の東にはペルセウス王子のペルセウス座があります。

この星座には、「アルゴル」という「変光星」があります。

「アルゴル」は王子が手に持った「メテウーサ」の首の額のところにあります。

さて、「エチオピア王家の物語」の出演者の最後は、化け鯨の「くじら座」です。

「ペガサスの四辺形」の東側の二つの星をつないで、南の方に二倍半ほど延ばして行きます。

そこに見つかる二等星の辺りが鯨の尾——有名な変光星の「ミラ」が、鯨の胸に当たります。

くじら座はこんなに大きな星座です。

「ミラ」という変光星は一番明るい時が二等星、一番暗いときは九等星になるとい星で、星自体がふくれたり縮んだりする躍動変光星です。

なぜ明るさかわるのか昔の人達は不思議に思ったのでしょうね。

そこでつけた名前が「ミラ」。

「ミラ」とは「不思議なもの」という意味の言葉なのです。

— M F —

秋の星座覚えましたか。

もう一度おぼろいしてみましよう。」

頭の上に「秋の四辺形」。

秋の四辺形は「ペガサス座」。

ペガサスの東に続く「アンドロメダ座」。

天の川の中にWの形に並んだ「カシオペア座」。

そして「ペルセウス座」……

「ケフェウス座」……

南の空には「へび座」。

秋の夜空に広がるギリシヤ神話の星座たち。  
そんな星座の物語を心に描きながら星空を見上げ  
てはいかがでしゅうか。

秋はもっとも空気の澄む季節です。

I M F O